

# 東香里病院

住所	枚方市東香里1丁目24番34号	電話	072-853-0501
病床数	173床	病棟数	3病棟

人権センターニュース No.80 より

## オンブズマン活動報告

平成18年10月5日訪問

病院全体で317床、うち精神科が173床。他科との共同診療体制により身体疾病を合併した患者を受け入れている。中でも、透析が必要で精神疾患をもつ患者の受け入れができる病院が他になく、他府県からの入院もある。

### 精神科全体について

【病院側の説明】精神科以外の病棟にも精神疾患をもつ患者はいる。各病棟の看護師が精神疾患による症状にも身体的な疾病にも対応できる。

精神疾患をもつ患者を受け入れない病院が多いため、透析をするにはこの病院に入院するしかない患者もいる。その他の合併症でも、グループホーム等の地域の社会資源では、夜間も含め、もしものときの医療的なサポートの態勢が整っていないことを理由に入居を断られる。

精神科病棟全体には合併症はない50～60歳くらいの患者が多く、そのような年齢であると、精神障害者の施設には受け入れてもらいにくく、介護保険の施設にはまだ早いと言われ、行く場のない患者が多い。

【透析室】15床のベッドが並んでいた。「午前中に3時間かけて透析をする。職員が5名つく。大きなトラブルはない、みなさん、透析治療を理解しています」との説明。

【金銭管理】病院に預ける場合は1日100円。自己管理の患者には、床頭台につけられる鍵(無料)を貸し出す。

### 各病棟について

【電話】詰所から少し離れた廊下沿いにあり、コの字型の囲いがついていた。8病棟はコイン式でその公衆電話の電話番号が書かれていた。NTTがテレホンカード式の電話を設置してくれなかったとのこと。医療相談室や人権センターの案内の貼紙にカバーがかけられ、掲示されていた。

【病室】6人部屋中心。ベッドごとにカーテン、床頭台、備え付けの棚があった。ベッドの周りには衣装ケースやカレンダーや時計をおく患者が多かった。出入口の扉や廊下側の壁にくもりガラスの窓があった。扉の窓ガラスの、真ん中あたりに数センチ透明のガラスになっている部分があり、病室内を見ることができる。

2人部屋は病状によって必要があれば使うとのこと、差額の料金設定はない。仕切りのカーテンがなく、少し狭く感じたが、個室として使うことが多いようだった。

【外出】開放病棟では基本的には外出は自由で、敷地内の売店や院外(病院前の美容院、ローソン、TSUTAYAなど)に行く。開放・閉鎖病棟いずれも、外出届けに行き先、帰院予定時間、食事の要否等を記入して詰所に届け出る。開放病棟では病棟廊下の真ん中あたりにある扉から階段に出られる。閉鎖病棟の場合は詰所に声をかけて扉を開けてもらう。帰ったときはドアホンで詰所に連絡をする。

【その他】診察は診察室にて、原則週に1回。OT・SST・音楽療法を他科の患者と合同でしている。病棟内は禁煙で、喫煙室は同じ建物の1階。面会は独立した部屋はなく、エレベーター横の「面会所」の表示の下に木製ベンチが1台あった。病院側によると、面会はベッドサイドでき、希望があれば外来に個室があるとのこと。

### 6病棟(開放・男女・57床)

詰所にて説明 平均年齢は60歳代。任意入院48名、医療保護入院3名。全員開放処遇。約3分の1は家族の高齢化などにより帰る家がない社会的入院者でその3分の2は10年以上の入院。ここ1～2年の動きとし

てPSWの支援により1~2名の退院があった。合併症の患者を受け入れているので、遠方からの入院が多く、面会者は少ない。透析を受けているのは7名。

金銭は原則自己管理。自己管理が難しい場合に、1週間単位で看護と一緒に計画を立て、自己管理できるように支援している。自己管理は3分の2。薬の自己管理は約4分の1。

**病棟の様子** 外出中の患者が多いようだった。病室にいる患者はパジャマでベッドに寝ていることが多かった。廊下には2~3名の私服の患者がいた。職員は処置などで詰所と病室を行き来し、忙しそうだった。

詰所出入口の扉が開けてあった。病室出入口の扉、ベッドサイドのカーテンは開けてあり、廊下からよく見渡せた。ベッドサイドに外出用の衣類を吊っているのが多く見られた。トイレは洋式と和式があり、ナースコール、手すりがあった。

**患者の声**「まあ、まあです。病院はどこでも、風呂は時間が決まっていて、せわしないけど、薬は持ってきてもらう人も、取りに行く人もいろいろや」「お食事がおいしい。お魚が多いし、骨が抜いてあり、食べやすい」

**8病棟** (閉鎖・58床)

**詰所での説明** 入院時の病棟。急性期の患者や異食行為のある患者など様々な状態の患者がおり、それぞれにあった看護が必要。年齢層は40~90歳代。任意入院35名、医療保護入院18名。任意入院で閉鎖処遇1名。閉鎖処遇の患者の外出は、職員の手すいた時、希望があった時、売店や畑などに出かける。職員が付き添って大きなスーパーに行くことも年に2~3回ある。15名ほど参加。

金銭の事務所管理は約20名。そのうち約10名は、一度病院に預けたものを週に1~2回手渡され、鍵付きロッカーで管理している。あとは家族や本人が管理。薬は看護師が病室に持っていく。

**病棟の様子** 病棟にいる患者の多くはベッドの上で過ごしていた。多くの患者が外出中で病棟全体がとても静かだった。3時前になり、どんどん帰って来た。詰所と扉まで数メートルあるので、看護補助が詰所と扉の間を何度も走って行き来していて、大変そうだった。3時過ぎの詰所まわりは、カップめんのお湯をもらいに来る患者、3時のおやつを取りに来る患者などで多かった。

病室出入口の扉が開いている部屋が多く、ベッドサイドのカーテンを閉めている患者が多かった。トイレの個室にはナースコールがあった、和式トイレには手すりがあった。明るかった。

**患者の声**「洗面所は今は水の蛇口しか使えないが、冬場になったらお湯が出る取っ手がセットされる」「入院生活で楽しみにしていることは買物」「(退院などについて相談できる人として)ケースワーカーを知っている」

**10病棟** (開放・58床)

**詰所での説明** 平均年齢は68歳くらい。車椅子以上の介護の必要な患者をこの病棟に集め、職員を厚めに配置している。転倒の可能性がある患者には、ベッドを可能な限り低くすることや、ベッドの周りに弾力のあるやわらかいマットを敷き詰めることもある。外出する機会は看護師と一緒に散歩に行く時、自分で売店の商品を選ぶ患者には家族や職員が付き添う。

金銭は病院管理が2名であとは、自己管理もしくは家族が管理。服薬は看護師が2名で病室をまわる。オムツ交換は原則は1日5回だが、適宜行っている。湯船のある浴室を使う患者は10名以内。2人ずつくらいで順番に入るので、シャワーは1ヶ所で足りている。特殊浴には脱衣場がなく、浴室前の廊下にカーテンを張り、脱衣場になる。特殊浴は約30名が利用している。

**病棟の様子** 時計・カレンダーや出入口の扉のあたりにトンボとコスモスの絵が飾られていた。看護師によると「掲示物を破く、壊す、食べてしまう等のトラブルがあったので、極力排除している」とのこと。

ベッドで点滴や酸素の処置を受けている患者が各病室にあり、テレビの前には患者数名と職員がいた。病棟の真ん中あたりの廊下にラジカセがあり、大きな音量で演歌が流れていた。詰所出入口の扉が開けられていて、用事のある患者はそこから声をかけていた。

ベッドサイドのカーテンは開けてあり、廊下からよく見渡せた。床頭台、衣装ケースが置いてあり、ナース

スコールは見あたらなかった。(病院側の回答：(略)ワイヤレスのナースコールを持っていただいております。)トイレは男女別のトイレと障害者用のトイレ1ヶ所。もともとは女性病棟だったので男性トイレに小用トイレがなく、洋式トイレを使っているとのこと。明るかった。

## 検討事項

昭和 43 年築ということで、患者の療養環境としてハード面における問題が多かった。また、このことは閉鎖病棟の扉の頻繁な開け閉め、特殊浴の脱衣場がないこと、患者とゆっくり話すスペースがないこと、患者の洗面所と職員が洗濯などの作業をする場が同じになっていることなど病棟構造上の欠陥が看護や介護のしにくさをもたらし、職員にかかる負担も大きいのではないかと感じた。

### 【デイルームと非常口】

各病棟には、独立したデイルームがなく、廊下の突き当たり、非常口の前がテレビを見る場所になっていた。病棟内の患者の人数を考えると、一部の患者しか利用できないのが現状のようだった。10病棟では非常口が長椅子と車椅子でふさがれていた。

隣にある老人保健施設、内科病棟はとてもきれいな一方で精神科の病棟だけかなり老朽化した建物だった。病院側の説明では「立て替え計画はあるが先立つものが必要」とのことであった。

また、非常口界限をデイルームとするしかない状況の病院に対して、行政はどのように指導をしてきたのか疑問が残る。

(病院側の回答：入院患者にできるだけ快適に入院生活を過ごしていただきたいと常に考えております。(略)また現状のできる対応として、来月(平成 19 年 3 月)より精神科作業療法室を増築し、社会復帰の自立支援と共に、楽しみのスペースとして活用していきたいと思っております。また精神病棟 2 階のリハビリ室のスペースを利用しての音楽療法も積極的に行い、少しでも楽しみのある入院生活を過ごしていただくよう努力をしていきたいと思っております。非常口に関しては、すぐに改善しております。(略)全ての病棟に徹底してまいります。/改善策は建替えしかないと考え、精神病棟の建替計画を進めている。最近建替えられた精神科病院の施設見学を既に開始しており、これを参考に機能性に加え居住性を重視したものにしたいと思っている。できれば 2 年以内の実現を目指しております。)

【意見箱への回答】入れられた意見への回答について、精神科の病棟内には掲示がないとのこと。(病院側の回答：(略)ご指摘以降《ご意見》とその《回答》を掲示することを継続しています。)

【6病棟女性トイレの貼紙】6病棟の女性トイレのドアに「ドアは閉めてね、鍵は閉めないで」の貼紙があった。(病院側の回答：(略)、当日鍵が壊れた為に《閉じ込め防止》に貼っておりました。鍵はすぐに修繕し改善しております。)

### 【鉄格子】

廊下にある外が見える窓には鉄格子がついていた。(病院側の回答：現在も病棟構造上換気が不十分で、廊下両端の窓を全開することで対処している。その 2 箇所窓鉄格子は外す方向で検討してまいりましたが、落下防止からいまだ改善には至っておりません。建替え時までご容赦願いたいと思っております。)

### 【病棟の雰囲気】

廊下の左右に病室が並び、廊下のつきあたりにテレビと椅子がある。病室の窓は外が全く見えないほどの白の濃いくもりガラス。内科病棟側の窓には一部、外が見えるように透明になっている部分があるが、反対側の病室は全面がくもりガラス。10病棟では出入口の扉に季節の貼り絵があったが、全体的にそのような配慮は少なく感じた。(病院側の回答：近隣の住宅に面している窓が全面くもりガラスになっている件につきましては、ご指摘を受け、早急に目線の高さまでのくもりガラスに改善し、《空》や《景色》が望めるように改善いたしました。また患者の処遇改善に関しては「療養環境委員会」にて話し合いの場を作っておりますが、《患者様の要望》も十分に配慮し、より一層環境の改善に努めてまいります。)

【職員の言葉遣いについて】

一部の職員のようにあったが高齢の患者に対し、「　　ちゃん」と呼びかけ、ため口で話しかけていた。(病院側の回答：より一層、言葉遣いの改善を徹底いたします。接遇委員会を中心に言葉遣いの徹底をしてはおりますが、職員一人ひとりに意識を持ってもらうよう再度教育していきます。(略) / “　　ちゃん”と呼ばないと反応していただけない一人の患者については、意志疎通の問題からその言葉遣いは改善されていない。以後も改善に向け、根気強く取り組んでいきます。)

【精神障害者の合併症治療について】

病院側から「精神科以外の病院から、毎日たくさんの入院の問い合わせがくる」とのことだった。他の精神科病院でも、精神科に入院中の患者が合併症で他科の病院に入院すると身体的なケアがまだまだ必要な段階でもいち早くもとの精神科病院に退院させられる、精神疾患を理由に他科に入院をすることを拒まれるなど、合併症のある精神障害者が他科で治療を受けられない現状があると聞く。

(病院側の回答：精神障害者の身体合併症の受け入れは、当院の使命としてこれからも積極的に取り組んでいきたいと思っております。 / 当院の特長である精神障害者の合併症治療を継続していくためには、精神科棟の建替えは、同一敷地内が望ましい。(略)現在の確保済みの現地では、距離がありその機能を維持するのが難しい。今の機能を継続するため、建物だけではなく、その運用を十分に検討し、建替え計画を進めていきたい。)

大阪府・大阪市・堺市への要望 また、この現状に対して、民間の精神科病院に任せたまにするのではなく、公立の病院等での受け入れ態勢を整える、もしくは民間の病院が受け入れやすい仕組みをつくるなど施策として検討をすべきではないだろうか。

人権センターが情報公開請求で入手した

**H18 大阪府精神保健福祉関係資料より (東香里病院分)**

154名の入院者のうち統合失調症群が94名(61%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が30名(19%)、気分障害が22名(14%)、入院形態は任意入院118名(77%)、医療保護入院36名(23%)、在院期間は1年未満が46名(30%)、1年以上5年未満が34名(22%)、5年以上10年未満が23名(15%)、10年以上20年未満が24名(16%)、20年以上が27名(18%)、(H18.6.30時点のデータ)